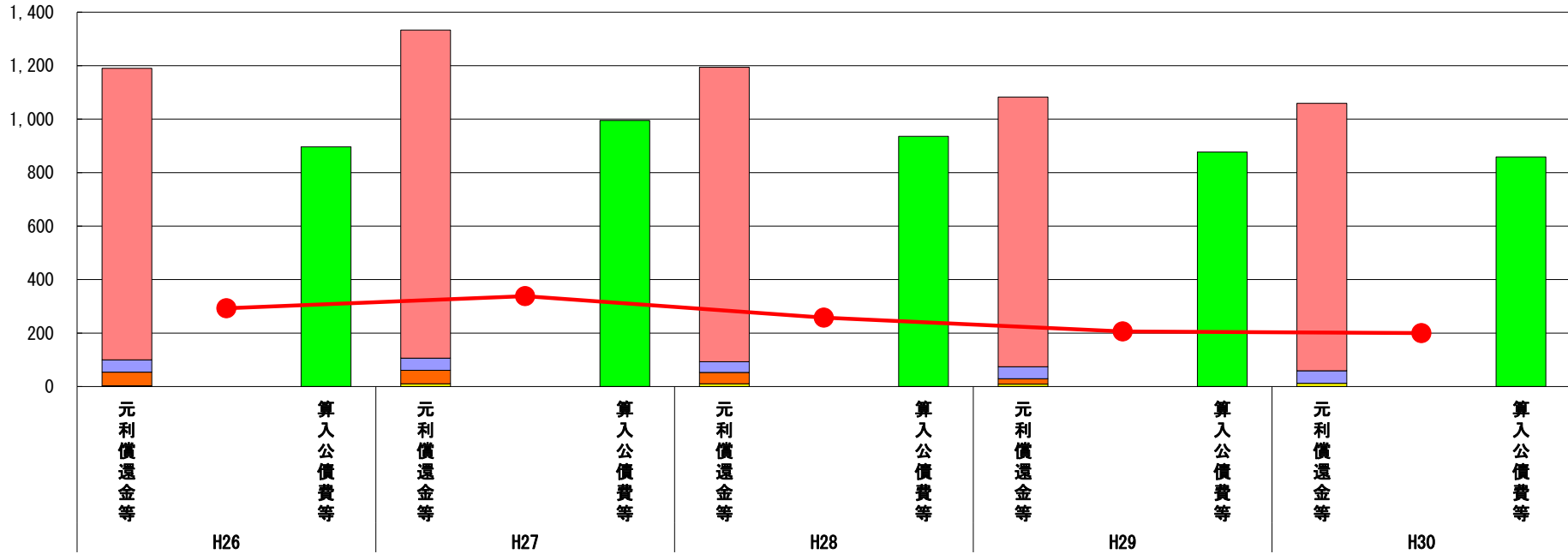


(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

北海道幌延町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等 (A)	元利償還金		1,090	1,227	1,101	1,009	1,000
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		46	45	40	45	47
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		51	51	43	20	-
	債務負担行為に基づく支出額		3	10	10	9	12
	一時借入金の利子		0	0	0	0	0
算入公債費等 (B)	算入公債費等		897	995	936	877	859
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		293	338	258	206	200

分析欄

近年の大型建設事業実施に係る起債の元金償還のため、平成23年度以降に数値が上昇したが、平成22年度に借入れた地方債の償還が平成27年度に完済したこと等により数値は下降している。また、類似団体平均を大きく上回っているが、これは、意図的に償還年数を圧縮したものであり、交付税算入となる有利な地方債が多く占めることにより、経常一般財源が確保できるため、それほど懸念すべき状況ではないと思われる。

※1 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。
(参考)

分子の構造		年度	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

特になし

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。